

受付年月日          年          月          日



三浦守

昭和二十一年一月二三日生

昭和五十七年 四月

兵庫県神戸市に生まれ、東京都大田区、小平市等で過ごす。麻布高等学校、東京大学法学部を卒業。  
検事に任命。

平政二年 七月

郡縣地檢檢事正 その後、最高檢檢事

二五年一月  
二七年二月

最高檢監務指導

三〇年二月

最高裁判所判事

最高裁判所において開示した主要な裁判

一 令和元年九月三日 第二小法廷判決

### 第二小法廷判案

二 令和二年二月二八日 第二小法廷判決

二八日 第二小法廷判決

第三者に損害を加へ、これを賠償した事案において、相当と認められる點について、余社に於て主張することができるとして、原判判決を尊重して差し戻した（合衆一玖、初見意見付加）。

三 令和二年一月八日 大法院判決  
最大校第三〇〇倍の参預員（選挙区選出）議員の議員定数配分規定について、合衆一玖、合衆一七の意見意見付加し、校區候補の不均衡たる選挙状態にあったとする多数を付した。

四 令和三年二月二四日 大法院判決  
令和三年二月二四日、大法院判決したところ、この選挙区選出議員の議員定数配分規定について、合衆一玖、合衆一七の意見意見付加し、校區候補の不均衡たる選挙状態にあったとする多数を付した。

二四日 大法廷判決

五 令和三年四月二十六日 第二小法廷判決

二六日 第二小法廷判決

六 令和三年六月二三日 大法院決定

三三 大法庭決意

した多数意見に対し、法が夫婦別氏の選択肢を設けていないことは憲法二四条に違反するとの意見を付した。

に違反するとの意見

裁判官としての心構え

司法は、國民の主權に由來し、その依頼に交へられるものです。時代とともに、社会の在り方が変化する中で、様々な問題や困難も生じており、法の支配と個人の権利利益の確保という、司法が担う責任の重さを痛感しています。一つ一つの事件について、誠実に、事実を究明し、公平で公正な判断を目指したいと思ひます。

そのためには、高い壇の上から見下ろすという姿勢ではなく、それぞれの當事者の立場を思いを理解し、その主張に十分耳を傾けることが、何よりも大切なことと考えています。そして、自らの良心に問いかけながら、広い視野の下に、多角的な検討と深い洞察を行うことができるように、今後とも研鑽を怠めたいと思います。

裁判官 三浦 守

- 1 掲載文は、原稿用紙の黒枠内に記載し、又は記録しなければならない。
- 2 掲載文は、原寸大で印刷し、原稿用紙の黒枠の線はそのまま掲載するものとする。